

2001年

11
月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No.105



写真：「動く宝石」(カワセミ) 有田政一さん撮影 (等々力緑地 釣堀近くにて)

- もくじ**
- 2 特集 川崎市生涯学習振興事業団創立10周年記念座談会
 - 4 生涯学習ア・ラ・カルト
 - 6 ぐるーぷBOX / いま地域で学校で
 - 7 まち・ひと・多面体 / 暮らし百景 俳壇
 - 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044(733)5560(代) / FAX 044(739)0085
ステージ・アップ直通 TEL 044(733)5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp

特集

川崎市生涯学習振興事業団10周年記念座談会

はじめてづくしの草創期をふりかえって



司会 私どもの川崎市生涯学習振興事業団は、昨年創立10周年を迎えておりますが、生涯学習プラザの耐震工事の関係で、本年に記念行事を延期いたしました。本日は創立10周年記念座談会ということで、事業団の基礎を作られた皆様方から当時の様子をうかがい、これからの事業団の発展に活かしていきたいと思っています。初めに事業団設立の準備段階から携わられた西澤さんをお願いします。

西澤 1989年4月に事業団準備にあたり、翌年正式に教育文化会館の5階に準備室を構えました。事業団が設立されてからは新百合21ビルに移り、庶務と経理を兼ねた総務係長として平成5年まで勤務いたしました。事業団は市民のライフステージに応じた生涯学習を一層推進するため「いつでも、どこでも、だれでもが参加し、学ぶことができる」よう、いくつかの構想が検討されましたが、既存の社会教育機関との連携の上に新たな視点から事業を推進するという形に落ち着き、これを実現化するため設立されたわけです。

当初の仕事は、事業団の設立趣旨を市民に理解していただくため「市民と語るつどい」を開催すること、認可する神奈川県との折衝、事業計画の作成、拠点となる新百合21ビル(当時は工事中)の管理受託会社との打ち合わせなどでした。

91年1月7日、できたばかりの新百合21ビルの引渡しを受けその後竣工式、1週間にわたる設立記念行事(コンサートや講演など)を行い、市民に周知を図るよう努めました。2月からは施設(研修室・会議室、多目的ホール)の提供を開始しました。しかし、ビルが突貫工事で建設されたため、さまざまな不具合(雨もり、可動式イス席の故障、空調など)が生じ、そのつど対応に追われていました。庶務・経理に加え、舞台の設営や営繕の仕事など、草創期は貸館業務で毎日薄水を踏む思いで過ごしていました。

司会 次に、同じく準備段階からかかわっておられた古橋さんをお願いします。

古橋 事業団設立について住民の理解を深めるために開催した説明会「市民と語るつどい」が思い出に残っています。この「つどい」を各区で行ってよかったと思います。この会では西澤さんと私が交代で、事業団設立趣旨・事業内容・市民館との役割分担などについて説明しました。市民の中には、

<出席者>西澤 哲史氏 (博物館振興財団事務局長)
古橋富美雄氏 (麻生市民館長)
稲垣 善朗氏 (前事業団事務局長)
森山 定雄氏 (元事業団副理事長)
岸 陽一氏 (教育委員会総務部主幹・庶務係長)
江頭 秀夫 (事業団専務理事)
関 智義 (事業団学習事業室長)
<司 会>伊藤 長和 (事業団事務局長)

事業団ができるのと公的社会教育(市民館など)との競合や社会教育の委託合理化がすすむのではないかと、設立を危惧する意見もありました。しかし、この「つどい」で市民と直接対話することで一定の理解が広がり、少しずつ展望が開けていった感じがしました。「つどい」で出された意見はその後の事業企画に活かされております。実際に担当した仕事は、資格取得支援講座やワープロ・パソコン講座などの実施、3ヵ年計画(5ヵ年に延期)による「市民学習意識調査」などです。

司会 古橋さんはこの「Stage Up」の名づけ親と聞いていますが…。

古橋 「Stage Up」の名称は生涯各期の生活をより豊かに、ライフステージをアップしよう、という願いをこめてつけました。事業団のニュースや、市民館以外の学習・文化情報を提供していこうと始めました。私が担当した創刊号(90年秋)から3号(91年秋)はB5判8ページで11000部出していました。当初は年2・3回の発行ということでしたが、4号からは元新聞記者の田中関さんが(通巻87号まで)担当して、B5判16ページ隔月発行、後に年10回16000部発行となり、配布先も市内全域の公共・民間施設に拡大されました。

森山 「Stage Up」は、情報の掲載だけでなく、市民の活動や生き方をインタビューした「いまを話す」、「グループ紹介」など斬新な企画が盛りこまれるようになり、各方面から注目を集めました。第3セクターが出している広報誌としては異色で、「どういうふうに乗っているのか」と他の都市からも問い合わせがたくさんあったようですね。

司会 次に、設立から今年3月まで事務局長として勤務された稲垣さんに発足当初の組織規模と予算規模など伺いたと思います。

稲垣 91年11月当時の職員は9人、予算は2億円程度でした。現在の人員の18分の1、予算は10分の1の規模でした。

最初は職員(自分も含めて)が財団の設立意義、何を目的にしているのか十分把握しないで準備にあたってしまったので、試行錯誤の日々でした。また、財団法人に対する理解がなかなか得られずつらい思いもしました。設立から2・3年

経過して、事業団も少しずつ認知され、さまざまな事業が行われるようになりました。1992年から、北海道中標津や岩手県東和町との地域間交流事業「サマーキャンプ」が開始されたり、1993年10月には「かわさき市民アカデミー」開校と、事業規模が拡大していきました。事業団が発展したのは、方針が明確であったこと、職員が目的意識を持ち一丸となって取り組んだこと、事業の企画・推進にあたって、関連する生涯学習施設との競合を避けたということだと思います。

司会 続いて事業団運営の実務面でご苦労なされた岸さんに、当時は振り返っていただきたいと思います。

岸 私は当時、社会教育課で生涯学習情報システムを担当していました。それをどう運営しようかと考えていたとき事業団に委託することになりました。92年の5月に事業団に着任しそのまま情報システムを担当しました。当時はインターネットなどが今のように普及していない状況で、情報検索システムのコムスなどの端末を各社会教育施設に置き運営するというものでした。その後、西澤さんの後任として、総務室で経理を担当しました。93年ごろの事業団は、総務室のほかに学習事業室、学習情報室、青少年活動事業室、スポーツ事業室と組織が大きくなり、新百合21ビルの地下2階のスペースに納まりきらず、教育文化会館、河原町小学校、中小企業・婦人会館などに各室が分散しててまとまりが悪い状態でした。また、施設の弾力的な運用ということで、青少年教育施設（八ヶ岳少年自然の家、青少年創作センター、黒川青少年野外活動センター）やスポーツセンター（体育館、武道館、幸・麻生スポーツセンター）の施設と事業を受託するようになりました。組織をどう動かし、どうつないで管理して行くかが当時は課題でした。

それから数年後、事業団が各室を1ヵ所に統合して効率よく運営したいと場所をもとめていた時期に、タイミングよく県から建物委譲の話がありました。そうして譲り受けた建物（前労働福祉会館）が現在の生涯学習プラザです。98年にプラザに統合されたことは事業団の歴史の大きな転換点ですね。

司会 次に、「かわさき市民アカデミー」の準備から開校まで、基礎を作られた森山さん、お願いします。

森山 当初は「シルバーカレッジ」構想として考えられていました。92年4月に「生涯学習プログラム開発委員会」という、アカデミー設立のための委員会が立ち上がり、10月には委員会が完了しました。報告書もないまま、あとはいままでの議論をふまえて事務局でまとめるということになったのです。「中高年者のための新しい学習機会としての川崎市民アカデミー創設をめざして」と題する事務局案をまとめたのが93年の1月でした。翌年度からのアカデミー設立の予算がついてるという状況でしたので、たいへん急ピッチで事業の準備を進めてまいりました。

構想は、単なるカルチャーセンターとしての学習ではない、専門的で、継続的な学習、大学との単位の互換性も持たせら

れるようなもの、しかも地域に立脚するという理念も盛りこんだ欲ばったものになってしまいました。何とかソフトはできあがったものの、ハード面は何もありません。教室はない、事務所もない、視聴覚機材もないという状況でした。それでも93年10月開校をめざして準備を進めていきました。なにはともあれ一番苦労したのが教室（場所）探しです。市内の施設18ヵ所を借りて講座を行っていました。

初回の募集時には会員が集まったのですが、翌年、さらに講座数を増やして募集したら、175人の定員に対し20人の応募しかありませんでした。おそらくアカデミーの歴史の中でこの時が最大の危機だったと思います。何とかしなければと、急遽20万枚のチラシを作りましたが、新聞折り込みにするほどの予算はありません。そこで、職員を総動員して、真夏の炎天下、手配りで各戸のポストに配布しました。その結果チラシを見て新たに30人が会員に加わりました。職員が一丸となって取り組んだ結果、強い連帯感が生まれましたね。

司会 アカデミーの現状を関学習事業室長をお願いします。

関 アカデミーの現状について述べます。94年の受講者（会員・聴講生）は前期後期合わせて延べ1628人でした。2001年は前期で2010人、後期は2568人で合計4578人、開校当初の約3倍の受講者数に達しました。応募される方はもっと多いのですが、現実には会場の都合で抽選せざるを得ないという状況です。現在よその会場を借りて講座を行っているのは1講座だけで、あとは生涯学習プラザと新百合21ビルで行っています。受講者は増加していますが、地域的に見るとやはり偏りがあります。川崎の市民が対象ですので、地域差が出ないように今後対応を検討したいと思っています。

司会 それでは江頭専務理事をお願いします。

江頭 私は昨年度1年間、ステージアップの編集に携わり、現在の形（A4判8ページ）に変更しました。編集作業は、口で言うほど簡単ではなく、何度も話し合っって試行錯誤しながら進めてきました。現在、各事業室の室長が編集委員になり、月1回編集会議を行っています。一つの組織で事業をする場合には、



92年5月通巻8号より月刊化。記念号は32ページで発行

各室の責任者が入ってはじめて成り立ちます。各室の情報の共有により意思の疎通が図られます。市民の方にも、事業団の全体の姿を伝えることができますと思います。

生涯学習の対象は小さい子どもから高齢者までです。「高齢者は他の世代に比べて学ぶ機会が用意されていない」と事業団発足当時、高橋市長がおっしゃっていましたが、高齢者の学びを手厚く支援し続けることが大切だと思っています。

今日ここにおいでになった方々に事業団の歴史を作っていただきました。当初は9人だった事業団職員も、いまは受託施設を含め160人になっています。10年間にこれだけ拡大したということは、市民の期待や要望も大きく、それだけ事業が増えたということであり、また責任が重くなったということでもあります。このことを心に留め生涯学習の推進に力を注いでいきたいと思っています。

●まなぶ●

かわさき市民アカデミー学園祭

11月23日(祝)～11月25日(日)

かわさき市民アカデミーの受講生が企画・運営する「第7回学園祭」が行われます。講演・展示・発表など多彩な催しがいっぱいです。今回は当事業団創立10周年の記念イベントも併せて行う予定です。どうぞお出かけください。

講演（会場は生涯学習プラザ）

- ◎「イスラムと政治」 法政大教授 木村正俊
- ◎「太平洋戦争中の日本外交」 東京大教授 酒井哲哉
- ◎「宮部みゆきのミステリー」 早稲田大教授 高橋敏夫
- ◎「エネルギーと環境」 東京大名誉教授 東 昭
- ◎「レオナルド・ダ・ヴィンチを語る」 実践女子大助教授 片桐頼継
- ◎「失われた10年とこれからの日本経済」 東京大教授 伊藤正直
- ◎「日中関係・過去・現在・未来」（討論も行います） 立教大名誉教授 野村浩一
- ◎「松本清張と私」 ジャーナリスト 宮田毬菜
- ◎「心に響く音の世界」 国立音楽大教授 村井靖児

演奏発表・展示など（会場は生涯学習プラザ）

▼朗読「日本語のリズム・日本語の響き」▼朗読劇「女の家族」▼演奏会 マガサス・ゾリスデン ▼展示「矢上川流域のまちづくりを考える」▼演奏・講演会「日本音楽の楽しみ」放送大客員教授 竹内道敬他

その他（生涯学習プラザ以外の会場）

▼見学会「日本科学未来館」▼歴史散歩「長尾の里めぐり」郷土史研究家 長島 保 ▼料理実習「インド料理を作ってみよう」▼オペラ鑑賞「フィガロの結婚を一緒に」▼自然観察会「国立科学博物館付属自然教育園」※詳しくは、下記学習事業室へお問い合わせください。

市内で活動の文化団体に
ホールを無料開放

（財）川崎市生涯学習振興事業団は、おもに川崎市内で活動する文化団体・グループに、新百合21ビル「トゥエンティワンホール」（多目的、小田急新百合ヶ丘駅から徒歩2分）とその付帯設備を無料で開放・貸し出す支援をします。ジャンルは、音楽・舞踊（ダンス）・演劇・映像などの文化・芸術です。

*貸し出し月と貸し出し団体数 2002年8月に2団体
*締め切り 11月22日(木)まで

問い合わせ 学習事業室 ☎044(733)6626

生涯学習ア

●さがす●

ご利用ください「教育人材センター」

経験豊富な教育関係者が、それぞれの専門分野ごとに市民の皆様のさまざまな学習活動を支援しています。こんな時こんな人がいればと思ったら、いつでもご連絡ください。教育人材の情報提供と紹介をいたします。

このような人材の紹介を

- ◆学習会・講習会などの指導者・助言者や講演会の講師
- ◆趣味の会・同好会などのアドバイザー
- ◆子ども会の行事やレクリエーション活動のリーダー
- ◆子どもの教育・学習についての相談者

「人材ガイド」を差し上げます（無料）

ご希望の方は140円切手を同封のうえ、下記へお申し込みください。

〒211-0011 中原区下沼部1709-4

川崎市教育会館内 教育人材センター

問い合わせ 教育人材センター ☎044(435)7474

川崎市子どもの権利に関する条例—その7

11月20日は「かわさき子どもの権利の日」

子どもの権利条例は市民に広く子どもの権利についての関心と理解を深めるため、11月20日を「かわさき子どもの権利の日」と定めています。1989年のこの日、国連で「子どもの権利条約」が採択されたことを記念するとともに、川崎の子どもたちが世界の子どもたちともつながってほしいという意味も込めて制定されました。

今年は初めての「子どもの権利の日」で様々な取り組みが予定されています。まず、川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）で11月18日(日)午後12時から「かわさき子どもの権利の日の集い」が開かれます。この第1部では行政区や中学校区で行われる「子ども会議」の報告、「子ども・夢・共和国」、そして条例に子どもの総意としての意見を市政に表す場と位置づけられる「川崎市子ども会議」の準備会の子どもたちによる報告などが行われます。第2部では大人から子どもへ、子どもから大人へ、子どもから子どもへとメッセージを発表しあう「トーク集会」も予定されています。また、市内の学校ではこの日の前後を「子どもの権利に関する週間」とし、子どもたち自身の権利の学習の機会とするとともに、学校生活の様子を地域の人々に公開する予定です。

これら「子どもの権利の日」の活動にはどなたでも参加することができます。

問い合わせ 市民局人権・男女共同参画室 ☎044(200)2344

ラ・カルト

●はぐくむ●

冬の八ヶ岳でスキーを楽しもう

カラマツの落葉を過ぎると、いよいよ八ヶ岳は冬の装いを一気に増してきます。寒さの厳しい冬の富士見高原ですが、晴れ渡った日に町から眺める八ヶ岳の山々は、まぶしいばかりの輝きを見せながら、どこか町全体を明るく照らすような雰囲気してくれるものがあります。

夏には多くの人たちが訪れる川崎市八ヶ岳少年自然の家ですが、冬の魅力も見逃せません。冬は何ととってもスキー、スノーボードのウインタースポーツです。富士見町には「富士見パノラマスキー場」と「富士見高原スキー場」のふたつのスキー場があり、首都圏から大勢の人たちが集まり、町は活気あふれる時期を迎えます。

川崎市八ヶ岳少年自然の家では、今年も下記の通り「八ヶ岳親子スキー」を実施いたします。ご家族で雄大な八ヶ岳の裾野で、思いっきりスキーを楽しみませんか。



- 日 程 平成14年2月22日(金)～24日(日) 2泊3日
 出発は22日19時頃、帰着は24日19時頃
 往復バス。集合・解散場所は南武線谷保駅
- 会 場 富士見パノラマスキー場
- 宿 泊 川崎市八ヶ岳少年自然の家
- 対 象 市内在住・在学の小学3年から中学生までの
 児童・生徒とその保護者
- 定 員 50人(抽選)
- 費 用 約18000円(バス・食事・レッスン代含む)
- 申し込み 平成14年1月5日(土)～25日(金)までに、往復は
 がきに郵便番号、住所、参加者全員の氏名、
 年齢、性別、電話番号を記し、下記あてにお
 送りください。
 〒399-0101
 長野県諏訪郡富士見町境字広原12067-482

問い合わせ 川崎市八ヶ岳少年自然の家
 ☎0266(66)2011

ハート & ハーモニー Vol.17

大人の体力テストは何のため？

1998年に文部省は「新体力テスト」を発表しました。それまでの「壮年体力テスト」からの大きな変化は、①評価する種目と採点表の上限を59歳から79歳に引き上げたのと、②「体力年齢を用いない」ことでしょうか。たとえば65歳～79歳では、6歳からの全年齢に共通の「握力」「上体起こし」「長座体前屈」と、「開眼片足立ち」「10m障害物歩行」「6分間歩行」が選ばれ、各種目1～10点として合計得点を年齢によってA～Eの5段階に評価します。

これからしばらくは全国で体力テスト指導員・判定員を通して普及が図られるでしょう。ラジオ体操に加えられた「みんなの体操」とともに、高齢化社会に対応する体力・健康づくりの基本的な運動として、少し前進したと言えるでしょう。

80歳以上がまだ入っていないのは、公的に発表するからには科学的根拠が必要で、体力テストの評価表は一定以上の人数のデータから作られるので、人数が足りないのが最大の理由でしょう。もう1つの「体力年齢」は、今まで余計な誤解を与えるだけだったので、無くすのは当然です。50歳で20代の平均値が出たからと言って、20代の身体ではないのですから、「20代の体力です」と言うのは疑問でした。

ここでもう少し考えたいのが、「みんなの平均値で評価する」方法が、それで良いかどうかです。かつては血圧やコレステロールも「平均値だから大丈夫」と言った時代はありました。今では「望ましい値の範囲」が研究されて決められるようになっていきます。体力テストもそうであってほしいのです。

日常生活を快適に、または支障なく送っていく上で、「十分な体力」と「必要な体力」が考えられます。種目によっては性別と年齢で基準を変える必要がありますが、例えば上体起こしが「3回」はできてほしい、「10回」できれば十分、という考え方は、同年齢の平均値や周りの人は関係ありません。片足立ちを閉眼にすると、65歳以上では3秒以下の人が大半ですが、これから期待したいのは、70代になっても「家で練習したら30秒できるようになりました。10秒は誰でもできるようになると思います。」という人が、どんどん出てきてくれることです。

体力テストの結果が悪かったら？「家に帰って同じ種目を練習してきて下さい、それがそのままあなたの必要な体力づくりになりますよ」そう言える体力テスト種目であれば理想的です。大人にはお持ち帰りのできる体力テストを見つけて普及しましょう。

(健康教育担当 スポーツドクター 野田晴彦)

ぐるーぷBOX

郷土の歌をともに楽しむ

「鷺ヶ峰老人いこいの家 教養講座民謡グループ」

「秋田おばこ」「江差馬子唄」「花笠音頭」など、民衆の中から生まれ伝えられてきた郷土色豊かな民謡。宮前区にある「鷺ヶ峰老人いこいの家 教養講座民謡グループ」のみなさんは、月2回集まって和気あいあいと民謡を楽しんでいます。平成5年の講座開始時は5・6人のメンバーでしたが、今では39人が集うまでになりました。

この日は、毎年12月に開催される発表会に向けて、これまで習った歌を全員で復習していました。「ハァー はるか彼方は相馬の空かよ」と「新相馬節」を全員で高らかに歌うと「今日は声がよく出ていますね。いいですよ」と講師の影澤萌重さん。三味線の伴奏に合わせて手拍子しながら歌う人、体を左右に揺らし調子を取りながら歌う人など、懐旧を誘う節回しに浸っています。自宅での練習用にテープレコーダーに録音している人や、歌詞カードに注意書きしている人も見うけられます。

時にはストップがかかり、「ちょっとお坊さんのお経のようですね。そこはこんな感じでしっかりね」と、先生が張りのあるつややかな声でお手本を示し、そのあと

に続いて全員が繰り返し歌うという場面もありました。

「第8回発表会」は12月2日(日)10時から、同じいこの家で行います。ひとり2曲ずつ大勢の前で披露するとあって、これからの練習に拍車がかかります。

会員の声「おなかのそこから声を出すのは、とても気持ちがいいです。少しぐらい体調が悪くても、ここで仲間と歌っていると元気が出ます」。

◆活動日：第2・4月曜 10時～12時

◆場 所：鷺ヶ峰老人いこいの家

◆連絡先：☎(976)6418 同いこいの家



いま地域で学校で

収穫の喜びを体験する

—下布田小学校のナシづくり体験—

川崎では明治以降ナシの栽培が盛んに行われるようになりました。多摩区の中野島駅周辺も「多摩川梨」の名産地で、幸水、豊水などたくさんのナシが出荷されています。下布田小学校（鈴木幹男校長、児童数466人）では、そんな地域特性を活かし、8年前から3年生がナシづくりの体験学習をしています。



今年も学校近くの田村果樹園（田村賢治さん経営）にお願いして、4月からナシづくりに取り組みました。ナシづくりは1年を通じてさまざまな仕事がありますが、子どもたちが体験するのは4月の花粉づけ、5月の摘果と袋かけ、9月の収穫で、田村さんの指導のもとに行います。それ以外のわらしき、消毒、水やりなどの作業は折を見て田村さんがしてくださったそうです。

収穫すると聞いて取材に伺いました。台風一過の太陽が照りつける日、体操着に紅白帽の子どもたちが心をわくわくさせながら集まっていました。収穫の前に二十世紀ナシをごちそうになり、ナシの特徴やもぎとり方を教えてもらいました。そして自分の名の記してある袋を見つけ、実をくるとひねって上手にもぎ取りました。

最後は質問タイム。児童たちは、ナシづくりで楽しいこと、つらいこと、農薬のことなどを次々と聞いています。田村さんはそれぞれの質問にいていねいに答えた後「ぶつけないよう大事に持って帰ってください」と声をかけていました。

同行した大沼誠一教頭は「店で売っているナシしか知らない児童たちが、物を作ることの大変さと収穫の喜びを味わうことはすばらしい経験になります」と語っていました。

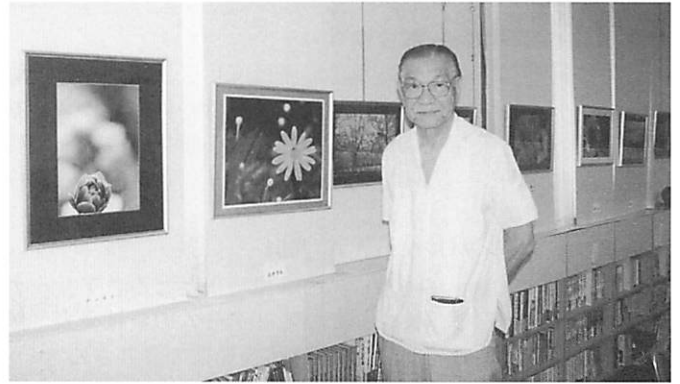
まち・ひと・多面体

多目的スペースを地域に開放

「アートホール新町」荻野高秋さん

川崎区渡田新町にある「アートホール新町」は、絵画や写真が趣味の荻野高秋さんが1996年に建てたものです。15坪のホールの壁には、いつも30点ほどの美術品が飾られています。荻野さんは「気軽に芸術に親しむ場として、さらに地域の学習・文化の向上のために役立てば」とこのホールを無料で開放しています。いまでは美術愛好家の作品展示だけでなく、ミニコンサートや学習会、ピアノのレッスン、健康体操の場として使われるようになりました。今年から、手持ちの本を貸し出す「新町文庫」も始め、いっそう多彩になりました。

午後になるとホールには近所の幼児や小学生が立ち寄り、絵を描いたり本を読んだりして自由に遊んでいます。そんな子どもたちのために、荻野さんはいつも画用紙とクレヨンを用意しています。子どもが絵を描いて置いて帰ると、それを額に入れて展示することもあるそうです。「子どもは頭に浮かんだことをすぐに描けるんです。すばらしい」と目を細めています。



また、荻野さんはホールのオープンと同時に、学習グループ「リバーカーレントの会」を発足させました。これまでに講演会や文学散歩、旅行会、コンサートなどを企画・運営し、40～70代の仲間と一緒に知る楽しさ、学ぶ喜びを分かち合ってきました。9月には、多くの企業の協力を得て5回目のコンサートを開催し、純益金を福祉団体に寄付するなど、社会貢献にも力を注いでいます。11月の催しは、15日(木)まで新町小学校児童の「ポスター展」。ホールは11時から19時まで開いています。場所は川崎駅からバス、渡田新町下車徒歩3分。企画・貸し出しに関する問い合わせは ☎044(344)6444。

くらし百景

俳壇

浮標川南句会

- | | |
|----------------|-------|
| かすむ眼に冬満月の兎とぶ | 希多 悠子 |
| 十月や腰を伸ばして茶の席へ | 城田 ひろ |
| 時雨忌や往時を偲ぶ旅の宿 | 菅谷マキ子 |
| 柿熟るる子の住む町に夫眠る | 室井 富子 |
| 柿落葉木洩れ日赤く照り返す | 若尾 笑子 |
| 秋灯を集めステンドグラスかな | 松原 徳枝 |
| 針山の針を眠らせ夜なべ果つ | 阿部よし子 |
| つづら折山の錦を縫ひあげぬ | 中條 迪夫 |
| 吊橋の揺れて谷間へ紅葉舞ふ | 名取千恵子 |
| 解く糸の軋みや妣の秋袷 | 荻原 富枝 |
| 亡き友を偲ぶ茶会の名残風炉 | 葦名 貞子 |
| 枷に遭ふ石の狭間の茗荷の子 | 後藤 春翠 |
| 新聞を拾ひ読みして秋深む | 陣内ミヨ子 |
| 何処よりとぎれとぎれの虫の声 | 木村 和子 |
| 下山者の励ましの声山登る | 竹原 博 |
| 幼きに霊位賜る曼珠沙華 | 坂本 敲佑 |
| 秋深む夫と二人の赤ワイン | 吉邨フミ子 |

※浮標川南句会は、今から十年前に大師老人いこいの家の教養講座として発足しました。モットーは、四季折々の自然や行事など、日本人の美意識が育ててきた俳句の「有季定型」を重んじ、「思いは深く言葉はやさしく」を守り、明るく楽しく学びの輪を広げることにあります。会員の少ない会ではありますが、仲間の絆だけは誇れる句会であると自負しております。

代表 後藤 春翠

情報コーナー **イベントパーク** 講座・コンサート他

●クリエイト科学館一般公開

12月2日(日)13時半～16時半。場所は麻生区黒川の発見工房クリエイト。科学遊具の公開▽人工夕焼けや虹、プラズマ原理の説明。科学手品や工作あり。対象は小学生～成人。定員60人。参加費子ども1000円、大人2000円。☎(981)1892の発見工房クリエイト。

●体操フェスティバルかわさき 2001

11月18日(日)9時～16時半。場所は川崎市とどろきアリーナ。健康増進や楽しみで体操をしている30チームの演技発表。無料。当日直接。☎(233)2233一般体操連盟の澤井さん。

●第3回太極拳表演会

11月11日(日)13時～16時。場所は川崎区の富士見中学校体育館。簡化24式、32式剣などの太極拳の型を披露。当日直接。無料。☎(822)6944川崎市武術太極拳協会の瀬野さん。

●総合自治会館作品展

11月17日(土)18日(日)の10時～17時(18日は16時まで)。同館利用団体による皿絵付・木芸画・生け花などの展示マウクレレ・folkloreなどの演奏。☎(733)1232。

●子育て交流集会～とん汁作って食べてみんなで遊ぼう!

11月11日(日)10時半～14時。場所は橋公園南せせらぎ広場。雨天時はプラザ橋。対象は3歳以上の子とその親、先着20組。保険・材料費300円。持参品あり。☎(788)1531のプラザ橋。

●東芝科学館①わくわく実験ショー～音の不思議

②ガリレオ工房科学実験教室～電気パンを作ろう

①は11月10日(土)②は12月22日(土)。時間は①②とも10時と13時半。定員①各250人②は小学4年以上各50人。要予約。無料。☎(549)2200。

●天体観望会～冬の星座・流星雨の話

11月17日(土)18時半～20時。場所は川崎授産学園。雨天時はスライド上映。無料。当日直接。☎(954)5011。

●平まなびあいグループ Andante 講演会

11月30日(金)10時～12時。場所は宮前区の平こども文化センター。「子どもの本に学ぶこと」と題し「童話屋」代表取締役の田中和雄さんが講演。受講料1000円。保育あり。☎(865)8056の堀内さん。

●プラザ橋公開講座～「子どものために」という前に

11月6日(火)10時～12時。講師はフリージャーナリストの青木悦さん。先着50人。無料。保育は500円。☎(788)1531。

●和光大学公開シンポジウム～東西文化交流と比較神話

11月16日(金)15時～17時半。会場は同大J-401教室。吉田敦彦・学習院大教授の講演「日本神話と比較神話」▽鶴岡真弓・立命館大教授の講演「ユーラシアの美術交流：ケルトから視る」▽松村一男同大教授の講演「比較神話と文化史」他。無料。当日直接。☎(989)7478の同大総合文化研究所。

●講演会「7カ国語で話そう」

11月3日(祝)13時～15時。場所は川崎駅ビルBE8階カメラアホール。「人とことばと国際交流」をテーマに石見昌治・言語交流研究所研究員が話す。無料。託児あり、要予約。☎0120(557)761の言語交流研究所。

●母乳育児のお話し会～妊娠中から断乳まで

11月17日(土)10時半～12時。場所は多摩市民館。講師は助産婦で野口母乳相談室主宰の野口かよさん。500円。託児あり、要予約。☎03(3415)5973の白澤さん。

●エスペラント・フェスティバル

11月25日(日)10時半～17時半。場所は川崎市国際交流センター。「グローバル化時代におけるエスペラント」、「言語と性差別」をテーマに若手エスペランティストによる講演と交流。参加費(昼食付き)一般1500円、学生1000円。午後の部のみ500円。☎・Fax(533)1974川崎エスペラント会の北川さん。

●市民ミュージアム企画展～現代写真の動向 2001

11月3日(祝)～12月24日(月)。9時半開館。国内外で活動している現代の日本人作家、朝岡あかね、折元立身、今義典など9人の作品展示。一般700円、大高生500円、中学生以下と65歳以上は無料。☎(754)4500。

●スナック喫茶琴～水彩画(野の花)展

11月5日(月)～12月1日(土)。紫田悦子、鈴木テイ子の作品を展示。☎(544)0507。

●ランチタイムコンサート～魅惑のハーブ

11月21日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。スクリーンミュージックから童謡まで、森真由美が演奏。「ムーンリバー」「枯れ葉」他。無料。☎(222)8821の文化財団。

●「60歳からの和太鼓教室」会員募集

健康のため、仲間づくりに和太鼓を始めてみませんか。練習は月2回金曜の9時～11時。場所は中原区の生涯学習プラザ他で行います。会費3000円、入会金1000円。☎(722)9482の和楽会「昇」の山田さん。

掘り出し物いっぱい フリーマーケット開催のお知らせ

(財)川崎市生涯学習振興事業団では、創立10周年記念事業のひとつとしてフリーマーケットを開催いたします。あなたも掘り出し物を見つけにいらっしゃいませんか。大勢の方々のご来場をお待ちしております。

◆日 時 11月24日(土)10時～15時(雨天の場合は25日)

◆場 所 川崎市生涯学習プラザ駐車場(JR南武線・東横線武蔵小杉駅より徒歩約10分)

<編集室から>10月号を見た読者の方々から「写真の鳥はフクロウではなくコミミズクですよ」と電話をいただきました。「日本鳥類保護連盟」と「山科鳥類研究所」に照会したところ、やはり「コミミズク」でしたので訂正します。コミミズクには、耳のような羽(羽角)があるのが特徴ですが、小さくて見えないものもあります。目の虹彩が黄色いのがコミミズクでフクロウのそれは黒。また、コミミズクは冬鳥で、秋から春にかけてわりあい開けた環境で昼間に観察できますが、フクロウは留鳥で、夜間に山地で活動するそうです。読者の方々からの電話をきっかけに「フクロウ」と「コミミズク」の違いを学びました。ありがとうございました。